

宝石を探し出す（10分）

[詩 52:2-4](#) あなたの舌はかみそりのように鋭い。害になることをたくらみ、人を欺く。 3 あなたは善よりも悪を愛する。正しいことではなく、うそを語りたがる。（セラ） 4 ああ、欺きに満ちた舌よ、あなたは危害を加える言葉全てを愛する。

この聖句では、ドエグがしたことがどのように描かれているか。（[洞-2 312](#)）サウル王の主立った羊飼という、監督として責任のある地位で仕えたエドム人。（[サムー 21:7; 22:9](#)）ドエグは改宗者だったようです。恐らく、誓約、何らかの汚れ、またはらい病の疑いのためと思われますが、ドエグはノブで「エホバの前に引き留められていた」ので、大祭司アヒメレクがダビデに供えのパンとゴリアテの剣を与えるのを目撃しました。後日、サウルが自分の僕たちに話しかけ、彼らが自分に対して陰謀を企てているのだと思っていることを述べた時、ドエグは自分がノブで見たことを漏らしました。サウルは大祭司だけでなく、ノブの他の祭司たちをも召集し、次いでアヒメレクに尋問した後、走者たちに祭司たちを殺すよう命じました。それらの走者たちがそうしようとしなかったので、ドエグはサウルの命令に従って、ためらうことなく全部で 85 人の祭司を殺しました。ドエグはそのような邪悪なことを行なった後、老若を問わずその住民すべてを、さらには家畜類を殺りくして、ノブを滅びにささげました。—[サムー 22:6-20](#)。詩52編表題（指揮者へ。マスキル。ダビデによる。エドム人ドエグが来て、サウルに、ダビデがアヒメレクの家に来たと言った時。）

今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。

（詩編 51:15）エホバ、私の唇を開いてください。口であなたを賛美するために。罪人は、神が憐れみをもっていわば唇を開かせ、ご自分の真理を語らせてくださらなければ、自分の唇をふさわしく開いてエホバを賛美することはできません。…ダビデのように自分の罪を許された人は皆、自分に対するエホバの過分のご親切を認識しなければならず、あらゆる機会を活用して神の真理をふれ告げ、『神の賛美を告げ知らせる』べきです。

（詩編 51:17）神に喜ばれる犠牲は、悔いる気持ち。後悔し、打ちのめされた心を、神よ、あなたは退けません。心から悔い改めるなら許すと優しく言ってくれています。罪の意識に苦しみ、「後悔し、打ちのめされた」人に、エホバは決して背を向けたりしません。

（詩編 52:8）しかし私は、神の家の生い茂るオリーブの木のようになる。神の揺るぎない愛に頼る、いつまでも永遠に。わたしたちは神に従い、神からの懲らしめを喜んで受け入れることによって、「神の家の生い茂ったオリーブの木のように」、エホバのすぐ近くにいて、神への産出的な奉仕をささげられるようになる。

（詩編 53:1）愚かな人は心の中で言う。「エホバはいない」。彼らの行動は腐敗していて忌まわしく、正しくない。善いことを行う人は誰もいない。神の存在を否定する人は、知性が欠けている訳ではなく、むしろ道徳的な意味で『分別がない』と言える。罰を免れることを期待し、腐敗し、嫌悪すべき行為に携わる。

※注解を準備して下さったり、参加して下さった皆さんに感謝いたします。

	オリーブ	バルサム	アーモンド	アカシア
1	浮田蒼	星延宏	滝秀貞	竹林直毅
2	田中慶一	星佳代	大谷正	竹林亜矢子
3	田中麻美子	星拓哉	大谷恵美子	水品安章
4	田中克彦	吉田忍	有田悟	水品由美子
5	田中弘子	吉田明美	有田優子	伊藤勇一
6	米山英行	長谷川貴史	阿部直生	伊藤本子
7	金刺桂子	長谷川瑛一	有川聖七	宮崎倫子
8	金刺由里子	田島智子	枝並あや子	石原小夜子
9	金刺亜以子	田島マヤ	枝並真菜	石原里佳
10	金目一郎	波多野信昭	福永和子	小島千晴
11	金目明美	波多野敬子	福永悦子	小島奈帆美
12	大坂典子	柴田まり子	荻原幸子	高橋綾子
13	高橋節子	柴田さつき	横山さち子	杉本千花子
14	杉山みどり	布川志津	米山京子	中田由美
15	長谷川裕美子	川島みさ子	居松広子	奥村由美
16	長谷川真穂	向山公康	安齋麻理	庄司祐子
17		平山優子	下野輝行	
18		宮城ひかる		